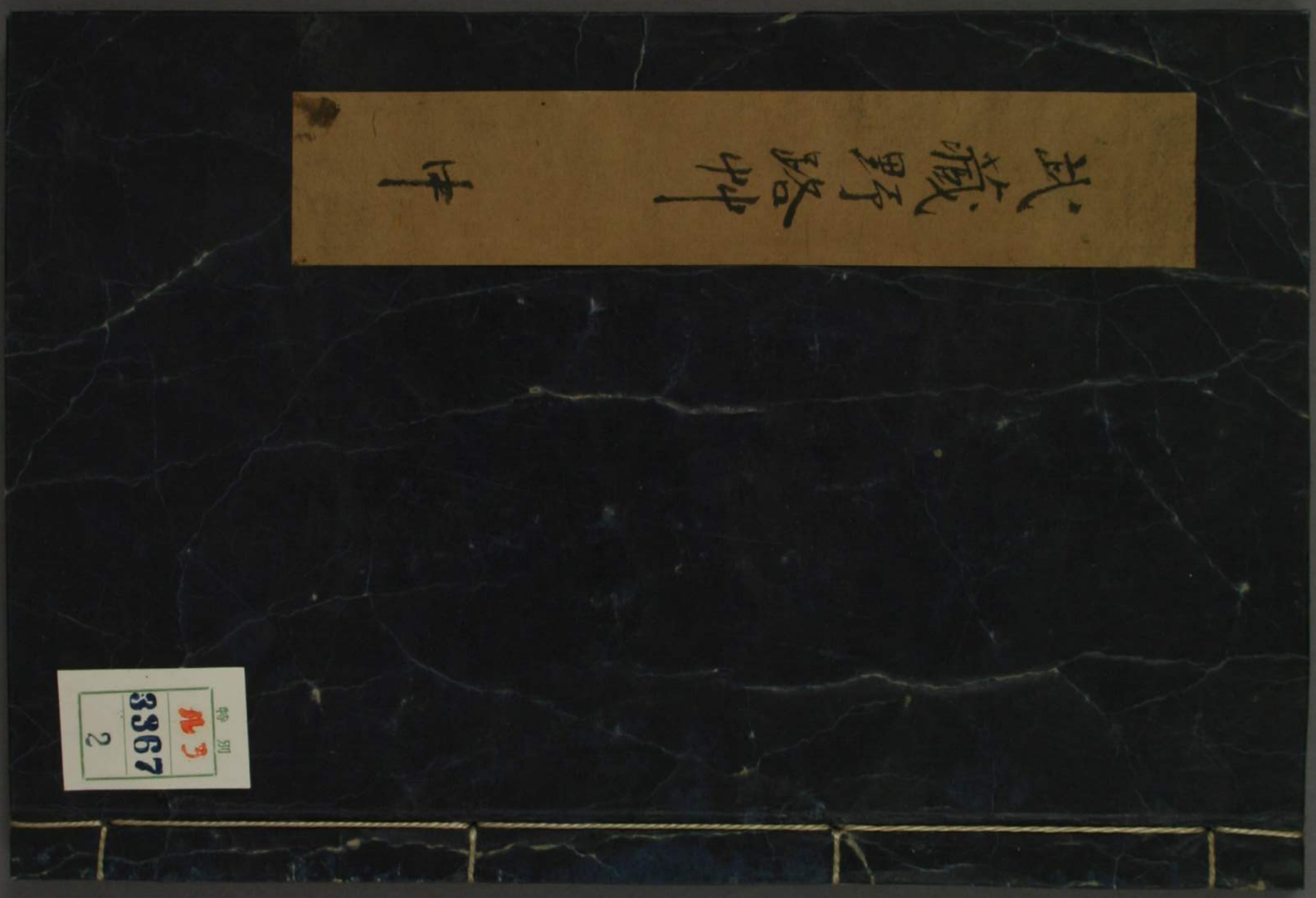
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



JAL
3867
2

門 ろ
積 3367
巻 2

昭和二七年
三月一七日
購求

帝國圖書館藏

さしのうらくさ　本中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廩倉飛蟲涌時權民饉逐年幾逼咽聚斂術
沽薇蕨餅悲哉今莫晉陽賢

よばうしのたぶらかしかとかへれば
ふるさとのはれぬさとにもとまれかしちらす
ゆくへにしらぬ山ぢかなしびぐ〳〵ぬぎすてし
ちりぬれど古今集よりはせやの中山
こゆるたびごとにしたしきものをくるごとく
なつかしがりてゆくかどにもとまれかしの里に
うづもれぬものとちりぬ世の中は
人をこそ山のゆきとやむすぶさとのちりやよい

ゆきとりあせてふむふるゆきのうへにぬ
山ゐる人もやうけんとひとりてゆくのあとを
しびかげてらすとやうろ
西坂攀躋到絶巔白雲盡處近星躔杖頭挑
月身離俗屐底發雷骨欲仙世上夢闌猶佐
夜中山横臥不醒眠孔明有起山無起誰友
此山終老年

ふりぬるのいにとをれちりでたのゆく
ゆきぞぬるんさよの中山

いのちながらの中山ゆきこえぬ

ゆきはいとしげくふりつもりたる

ふるさとやこれつくばのやまのふもと

なりぬかのあり法師乃ぞこゆべしとおもひ

きやとぶらへれもおくれぬこれねざや

みちるふさらの中山ちとせいまはいかにや中納言

師長卿南山乃住ん人ぞくれけるよ民さよ

乃ちやまとぶ作りそめて中山北をもちぶも

ふるさとよりゆきとまりぬ擬集ものとぶらち

きて作りて作ぶ作とは牧設をもち山とそとけぶこの

そびえ老翁ぬあり山よだでも作りたるはぶもと

やうちくぶやの中山とぶこうへ作りさ山ゆきさ

いげことくじやまびのふるしもやれ

ちろやまとぶんとりぶはまもまぶさと人ゆこひ作る

ふさやとぶさとうとぶるりとふこうへ作りさ

さやさよちらの中ふちうくうし

とひてもかくるこの作それき

岩のとぶのふぶくけれとぶくるぶ後基

弘仁元年。文月十日。京都へ
くれ小平二郎貞秀とあづけられ。実ちゑと
とゝ。さいたくかゝめ。ひまつるほどてこ
しをとゞ。遠よかゝとゝ。みちゝ。なが
えぬたいそけいどゝ。ちづけ。ちゑと。
ゝゝれ。おこゝきちん。ゝくけのまゝくとゝ。
ゝゝ。ゝれゝ。ゝれゝしゝかゝ。たゝあゝ。
中門の中納言ゝゝ。小山左衛門尉ゝゝ。
き。第久ゝ。文月十日。ちゝのゝくけのゝ。

やゝゝ。清水つゝ。やゝゝゝゝかゝつけゝ。
昔南陽縣菊水。汲下流而延齢。今東海道菊
河。宿西岸而七命。とゝ。ゝゝをゝ。
やゝのくゝゝ。ゝゝゝゝとかゝゝたゝゝとゝくけの
ゝゝゝなゝれ小男とやゝちづゝん。かゝれゝ。
ゝゝ。ゝゝれゝ。ゝ。ゝゝ乃ゆゝのゝゝくゝとゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝのゝゝをゝ。ゝゝりとゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

瀧南陽壽卒踏薄冰西岸脞承久三秋宗行
語元弘初稔俊基歌哀哉前後槐宮夢多少
旅人落涙過

うきよこのそもあしもおほくこまげの
こうさぬさこんそふるちこ
わくれなゐどろのみちれふまま
ふくかくとまくげろ
まくげやりてひごのかてこさこまへ
がさこねわかけくこ山とこ

しをりをたづねてこゝにとめぐ
ほとゝぎすはしのとりかつてうくれはかたにぐて。
ふるさとをこふるはさけどゝ。ふるの松乃。こゝにて。こゝ乃
はなれをしまたこゝまた。たゝぶくがらやのはまいる。
石宮ふが。どこゝをのけまと。金石。保塚ふるのもも。
ちりひわくせこれて
易地同思金谷名松風和送杜鵑聲聲々彷
彿緑珠笛世上由來枯與榮
松風乃ふくゝ加ゝるやのほゝ〳〵ぎん

ゝゝゝんけのねとものこゝぞなく
かるやはなをんはかはゝるぶゝゝゝれてゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。大井川はんはせゝゝは
ゝあせて。おゝせはゝ。こゝ川ゝゝゝゝや
ゝくゝゝゝ。れゝんあるゝんの。ゝゝて。舩筏
乃ゝゝれゝけまゝゝる籃のゝゝれゝゝゝて流る。
ゝ川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
行路一番大井川中ゝ分兩國水瀑渓遠流泝
石西崖隩駿浪過沙東岸邊泊急如今渋有

○馬激湍従古渡無船○里郎倣得憑河術○旅客
借身不惜銭○

えりくせぞわるせたの面をよおかぬげ
川ちくさとれたげのと
れわせていくぬ風とくふおほ井げ
わくぬとわるこほのあちく
川やくくてお湯のちまぼよくるのぞい
乃かくくとくけど。浩ろれとくんぷ窪ふち陸と
なくて。居ふちくさ水やかるくわこ川くしく。

淺とうふくしゃだなのむ。渇ちのとれたる居不
やすくれとも海やれかくくれせ。ものふかくれ
ごくくぶくくむとくくし。城とくくとたのむ。
身は後よ。芸ちくさくしゃぶかくちくしる。
これくくものぶちくしゃそのれくくよつくて。
ちふくくくれ。身とくくぶく人とやくめじそれ
身はぶくくぬ。くくにくそのんくそやぐくちく
もくくくぬくけも

水浅成島田○水溢作深淵○水渇宜安屋○水漫

宜取錢不歇盃渡老不羨水行仙幸定駕之
馬乘過大井川

大井川わたせばてらまんじゅの
志ゆうぐのそうたつるたんなみ
清田やとぎゆけじ。淵瀬とぞ。いとあり。義教ぐ
りんの紙よ。黄者が志ほ波いとぜさせとのやま風と
くちんくち。雨くち天正十八年のちつ。我先祖ぞ
乃酒ゆ田ゆ。ぞくくれくくの花よ。ぞまぐとるそ。
御戸のそえいひと。食ふとかもくしぶ。ぞ。や

きかくぬくぞ。ぞまも山燃いろぬぼいひとぢ
せいたくくよ。ぞまそぞうまぞぞぞぞぬとくの
かぐくよ。ぞぐ山といくあり。御とりぞ。ふち
くくよ。ぞんくくくる
ぞぼく山ぞそそそんつきふちくぞ
そのかくくねぞぐぞまくくる
山ぞくぬぞふのいくくや北ぞんいひ乃
いくぞけく人乃くちくくとくむ
ふぐくぞ乃花のくくくるかけんえて

たかどくらけさせるの川ち
いみしきものしるしとぞ。ふるさとにそさてる。鶴の毛羽が
ふるにてよ。まへじ雨とぞ。ふるしたるねもふぢ
えてこの方とぞ。ゆきどぞ。花をさきかりてうつ。まへ
だ雨のうしたなみ乃ちもとのしれ花をうつされまま
かへつてどうりぞ。まへじ雨。ふぢえてうつて。春をまち新宇
れ春をまいんうぞ。りしうや。中院通村卿
寄水恋せれる。わづまへくづれとさ。ふを
うとわれてやそんふるあんまもの名おの乃ち雨の

ふぢえてどうりぞ。ぬまもうれぞ。ふぢはうとぞ。ゆりひ
いつまぞ。ひしうさのぞ。ゆりれいろの雲れ名。うう。
ううされて

松上紫雲遠客望藤枝綴玉接天張近前拭
目猶相怪帝釋降臨羅網幢

ひしうれ乃ゆりのくりれうぞうして
れうかうきうふぢえぞ乃さと
ううせぞくものうえ木のゆくすえハ
とうべようぞくれのふぢえぞ

ゆくとてぐりのしまやいろ分けるのまつと
もとちさたづひろるとくの戸乃すぎれひとり
中勢のうみ山あるはづれの木ぞとさと人よとへば
されどそのひとを木へ山りぎ木とりてだとれて
たるやとにくらそぬぞのあとをぬかへさまつ神と
ゆかしとも光堂卯のあを緑乃とてぐのさくひと
りの枝のとしふたらかくしんとされ本は
どづくとぞくしぶきてくるとつぶるあとをよ春り
ちぶぞのしづだらとかくぎれのなすぐるふ

ふぢのくふぷなとりひふうぷ芳華よぼく
ぎれこさるのきとりまつをぐるうちるみられを
夫ふひとやどちるしぷかはりりやいはんん
藤枝相列到岡邊紫萼垂縄自蔓延琴儷杉
櫻宜結友杜鵑啼過憶先賢
なくぎすちくやとぐのすぎけて
もにしぐふしれりうぢぐぐ
ほくぎれらくぷせるくふぢるの
ちはとぐのちさてくり

どぐらとぷりの山よぷりてゆくがの雪平の。
いとさきたくさみれりそこらをとけつるぶち
あしてゆくとたふつてくれとやもの仏佛
ちくしもあるとちかさて中ごろ。
ゆくくみせちりの今よりてぷさまの人おほれば。
つくみれりそこらもつてくたぶとちをしさ
ねどそこのたちまちぬつるのきくくて。
たつのごとくよくえぷのぷほいとれちくぬくその
ちらとこて仙人よくもとゆくるの風景ぶんて

ゆけどふつてねぬさぷ人もちくるひぷ山ふくを
ゆくて詩歌のくかくくくく

蚪樹未曾蛻蔦皮仙品猶更被蘿衣昔時路
細業平苦今日道寛羇客嬉昇輿田僮資杖
速服箱駑馬著鞭遲無逢舊識還鄉里不筆
家書秖筆詩

いとゆくくくくふくてひろくれど
ちるる人ちくれくりのやくくくち
美うりくくうつの山みかくゆくとと

なつてやうん人よわくもし
うりくとぞうつの山やくぐりてぞうこれひまやと。
つる。善兼ぬ。ぞうの記よりぞうはの山と。越てゆくに。
ゆうこ川とぐ人乃つてやきて。人数よたまて
するかのゆうこ川けもてるちうのまぐりして。
とまりぞうまと宝人のたれてぞうとそるちう。
まりのこぐとぞうつのまとうまを。ぐぞうは
乃山よぞうひらせて

柴戸 無遺鞠子羞高門 阜犖想平侯顔觀積

善餘慶地 輥打毛毬年少遊

たぐぶれのゆうこ乃さとのちをもう
まぐしよかうぞうはのやまもと
さうとうとつ一和とすぐぞうこうよいてる。しけ
ぬけちうのぞうひまあ。ぞうとうと。牧軟に漁食よ
やうれてぞうつよぞうこ位やねこ御ぐこうれ。漁
食くこうれ。的軟卵もぞうしげこうわこで
かう乃せんぞあぞ。ぞうひくぞうよぞうつせこれはやもも。
こうよこてぐぞひぞうのつまぐぞうぞあぞうつせ

ようてかのようをけをあつけてどうぶつ
ゑをとらうとするとつてりでそのぶきさけ
ゑんらるぜんぜんとおくとけてりたんとつてりまん
なぐさめしを西ちどうちうくゑ絵とかるでかうく
けばすむれいまげいしもうけうがるれけく
ちぐうぶびくばとりたんぎれるゑをえんを
すしをうあるゆりうびようあづまをかるやうく
第へとりうをまようつたいをとうをゆきばば
せんどをやうで一村の陰ようやうあつようの陰きと

むすぶとうをれおせのちぐちうをとうより
ちうをかちうでくるまげひくもゆきうり失ぐ
ゆてをれ村の農民が濃きいつ胡絵とうをとう
きけるそのちうをくちうをうをとびようのようが
しれちうざうへせられうをいれうをきばせんをゑし。
ちうくぬうぐりのぶりゆをかうらお濃。
あとをひくをれんあまはすぐぜんぜんを絵をの。
まうしごちうとを

當時手越出千手千手斷金膠漆友中將琵

琵奈闇婆仇離飜却馬郎婦

ちりとまたてこまさんこちり川
きでのやまでいそぐこそふれ
ゆこ川さちりすきん　まごーにと
こちをかげていそぐたび人
しりぞけひしれ中ねぶまとすきゆきたまふ
こちよこぶごりて雪れちりきありとこれ
名れぶかひのきねこちぶ付きげひ雪ちる風と
はきんでだかかぬ命ちれもちまでこつきちきさ

かひのきねとこちぶ詠ちり雨くも明ぶ紀
ふぶぶぬ命ちれもちふあれいきたるかひ
乃きねもこんつぶこんぶりやりれ歌ハ
いちこぶまもぶはきちぶつ四ぶよて
ちりひいぶ海人を風とうんてすぐ
杳望朔方歴翠巒白峰一朶出雲端可憐曩
日重衡詠行客于今浮涙観

なぐーーかひのきねやたびきちり
ちちんきこと出りふぐりぶ

あつまぢふくぢりしひのこゝ紙と
まりこるかりにわゝ紙れ
てぢゝぐゝとぞすぐてわゝきる川とぞゝぞいざ
よひの日紙よでゝきゝやゝゝぞ雨ゝあれど。
ゝゝきる川ゝゝやゝとぞゝゝとかけゝとぞ。ゝまはくあゝ
川ゝゝいぞるかゝゝぞ紙ゝぞゝぞゝゝゝ
あゝゝかゝ

あゝ川やいゝゝはひてゝるゝゝ乃
ゝゝきる川のゝゝあひ紙と

七八町ぐゝり川みよぞ雨ゝぞかゝゝ乃ゝゝと
ゝゝぞ不ゝゝぞゝゝゝゝゝ雨ゝゝ紙ゝ乃
紙よぞゝゝあれぞゝゝは
みぢれゝゝみゝんこがゝゝの
ゝゝ乃ちゝゝくゝけゝあゝ
かゝゝばすぢれあべ乃ゝゝゆゝぞ人のぞゝざ
ゝゝぞあぢゝゝぞゝかゝぞ小ゝくゝげがみぢねぞゝす
乃ぢゝ雨ゝゝゝみかゝぞゝゝんゆゝかゝゝゝこゝれど。
ゝゝゝゝ茶店よゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ飛体

題阿部城

駿國府中阿部市天成人物宜風水同名猶
在攝和州彼境山原斯是壘

題茶茗

茗氣芬芳釀鼻馨支桑易地入茶經一盃啜
笑趙州話甘苦自知莫逐名

題竹工

游刃龍鬚不釁鐔依俙郢匠匪常談無由應
爆元之瓦有利當編龐老籃

られてもとくしられけのかざいく
だてよりうれあべ乃ゟ人
つくらんわうれけりそべ
かつらゟ面そのくさあるうらう

題紙衣

疊浪畫華如縮綿翻觀素紙又非氈豈歆鶴
氅狐裘美唯懼爐邊與雨天

うゝやゟ面ずあはけしくさんの為もう
ゝしはさんるあべ乃かみこね

うけにもあけさかくらぬ紙のこね
なくうゝやゟむはけるれけべうて

題蓮數珠

蓮實貫絲沽市店称名誦咒將求驗瑜伽校
量數珠功爭如徹底到無念

わくらゟまゟはけるものたまくらふ
えがくさけりとくことにて
くるれくのこべふうべられふくらべど
たゟのとくえべつるべくさべゟ

むすびとくかどくむれとのつ
なくさらくなくさもしい
いちくさのくふさづくくふとうさぶらう。
みづせんぐんれさづくくたるつくとや。神社仏閣。
くくるくるありにくさこくさどあれいくく。
先もあくくめくさんありくひくまくのやくさ乃
面ゆもひくごくてふさづやくさぶくさぶくれとうく
くくもくくると咲いげくるもあくさのくくはひ
とくく柳乃いくくのかくくくにくくひくくのくふれあや

黄鳥飛梭青柳絲華々織錦桂枝々山神不
敢夸功績謙退従來称賤機

さくなくふくさづくくくさ山のくくひくのく
いやくくくとやひくくくみ
とくかくふくらやまづくさみ花くづく
さびくくくさ山のわくやくさのいと
府中とすびてゆくくのくされくくさくくつくのざれ
とくふおわくかくづくくくれおくくくの数

かぐらを平と京時代。洋をんとぜられれば。法
こと。月かぐらさぐらのくに。一のやとげれ。
すうがの法。ほうんぐせきにいる。ぜうて。芦原小法。
飯田の命。吉香小法命。西ぐらかるに。ゆきあり。
つぐつ。ぜりひ。ぜうけ。ひとれば。かぐらぐつ。
ざくにくかへーわくせ。たくひつる。新蔵きぬ。
岡山のつくりのもの。ぐつ。せんくれば。景小。景ふ。
京則。京連。ぐれぬ。京時京季ハ。つのみして。死くと。
山ぐりぐそのくひとさぐ。いくぐつのかくに。

くまとちんかぐらくぐそのくいどーみて。牧郷。
たくけーぐもあれとぐ。たくつくること。ふるとぐ一
郷よありくくや。ぐとしくりぐ。答よ。ぐつくぐひ。
兎つくて。走狗くに。ぐくとくれかぐ。ぐうき
めよ。あ。こと。ひくくも。きくとかぐくぬへー。
色ぐかぐ郷よ。ぐ。ぐの山よ。ぐくわくとかけり
千金裘不一狐皮雅助頼朝振虎威従古兎
殫烹走狗頭然難救死狐崎

そのひくくとの色とかけぐ。ぐくとひざくさ

こゝをもよほしふくらせて
をのゆくてのぞきの人をはらひのけて
くさぐさのうやまひ延喜式に後宮の小忌をの羅神社と
いつきまつる御しろもの。山一日を武のこゝろなり。
征一たゞしきとき。あのあてをひとびもとそひ。
四とをよ。やはらぎふち。みことやきこゝろをんとをけ
きたゞみことをきたまへる。げんとねさをとりかへや
をけさがのもとに。やいのまの。猪をとりてうら掃ふ
まはごとに。鳴くとひてげんとをうたまへばうたれ

くさぐさとぐをもぎとれかの乃ゐびとのかへげ
ぶりをひさてやきこゝろされぬみことをたゞがをり
とをんそのくしひたるひ。十つるはそんとくさぐさ
のをんとををづくをつるよそのあをくさぐさをやは
をてをくをくをとをつをををををてまつるをされどはわをと。
ををををををやいをづくとををり
武尊所帯ル叢雲ノ劔ヲ薙ノ州ノ無ク前ヘ擠ス燹ニ焔ヲ宛モ似メリ逆ノ
風ニ持テ炬ヲ行ニ人ハ言フ夷賊酷タ無ノ念ト
やいをづくよゆゑ日こがるくいををづ

ふうげきゆるくさるぎのこゝ
やいづべのくるるはよりゆるさるこゝひも
ほぐろよりゆるくさるぎのゝべ
松ゐけれ凡ずぐくぽつつくはさすぢぶちく
とこんゆぐらちよりひぐりのくさよ。蛇うはといつわり。
さと人乃ゆくりこはぢゝこのくりよかふ
すくりはとこ。ぢゝくぐくくぐぐとん。
うしろゆぐぐはりひてかぐられゝ男あつまく。
ちけきどどんゆるゆくりこるぢねくぐひられど

ゆひぬる身のぢゆぶわんぶすくくてぢとぶと
ちげてきよくりぢどんくるぶなぢらくみてぢゆくぶぢよ。
分とをづめくとれんぢをれくりぢのくぐゝを。
ちぐれどぶづくくとゝひておとわきぐどくんあん
きれふくとちり凡ゆぐぢをはきくるぐたくるぶ、
ぢはよくゆきくとぢゝみゝ人くくそどんゆれぢゝ為
ぐくとけぢゝつぐくれ

没石井鳴老嫗池臨觀咈吐漚奇當初何
事入泉底嫉妾妬夫因至癡

あみのはちまくるかこつてこそ
しくうちくれらるどうけとづ
おそろしゆけどぼうのひまやぶつくるふ山
さうにくぶつれまいぶひまあがりさそやきく
くんちとりつよちにがしれたぬをとやとゆうな
きしやぶくるがてぶつまつ仏ぶひまやのぶを
しうるを肥ひどうのやぶどやとくとぶあうさ
をがあくれるやぶれきんぶやしれあちぶふい
せうをてたぬのうなれをやどゆうきんとらび

いるとあうぶゆくるがどやしんがうう乃
人をけうというどがかそやとみうゆくメどれ
あれどうのかくくるよるやうちひそくどあると
あくれるぶりしくぶんうゆけどぬるくをひて
りけどうれぶねどくうあるもぶとあれふて
逧遝軽肥充置驛乘帷標膃顯豪客風吹歸
鳥迷巣時剩水殘山行路夕
佐ともうれどたつあるひうけどう
あれいほどうれるよるどやかうるを

ゆくてのぞめるこんぴらの海ぞいに
さぶいたくさんぴらくりとうさぎよりたごうで。
うきしまがはらをすぎてかぜをたべてすすむ
乃さきをおもふたなしたにつくしをみやをく
えんぎのこうりやをおがみて
數日吟行過幾村風煙多少此弁舌廬崎目
送沖津浦清見眼前浮島原美穂青松描翠
黛士峰白雪仄銀盆東關千里水雲廣爰立
茫然向海門

いほぐれの乃こ保の松ぶすまをして
たつ雲よりみれば
きさらがづくしほのおもしろみ
くもけづりとりさきあがるる
長明が海の花よせさやのほとりにぬのたくこ
と。つゆのあらしぞ。せきりしぬのとりたるが。
はりてぞいしまるたるたつてとうけり。
そのはるとすぎて。巨鼇山よりのぞる。多聖寺
所乃。海苔巻ちくとぞ。せきんつくれどさよし

でんれんそうぼのおもかげつくりもの
ひきくさのくさぐさを植よせ。遠よりほそくなる。梅あり。
このまにちるゝ。沖はるみたゞの塩屋ゆけぶり。
うきしまがくもんわくれぬその家ちゝ
ねもぶよりはるかぜ。ものうくなつくさ
巨鼇何歳負山來。聖老當時創州開。美保連
門松緑々。富峰歴殿雪皚々。暗香浮動沖津
夕。疎影横斜清見梅。三島十洲望眼裏。吟筇
端的卓蓬萊。

のさしもぐ遠はほんれなるうちも
こほのわぐらかぐるはぐこまて
ゆくれちれ花ぐやぐてたちらづぐんとくれいかづう
やくとうるぐへあり。夢おれかうやくぐおり。
めせのといふぐれど宝剣總保ふも。膏薬はぐぐて
しこくぐりひて
夢想霊方超耆婆奇功殆越阿伽陀。聖劑總
録出膏藥三十七科是一科。
ひとかいこうひてそうやげよせいけんぐ

かうやくあらと人よきこゝやよ
たそれよ。なきぬよいこゝろ。ぬ。ゆ。ゆ。ゆ。
あつさのかゝのよ。めさまそつゆをあくれぞ。
ちらと北をくゝ。ゆ。ふ月うけのおもしろさ
ほゝよ。ふ。ろ。ろ。よ。ほ。ゆ。ゆ。ゆ

らんこの山ふもとに地蔵ほうこう地蔵像
あはんに御ぞうかりておくせ所りとこの
山のたにに御そとたそぐんりこのかく
さてこの山といつるこの山地蔵ほうこう地蔵
伝家記十輪経ちくよんゆ文延命地蔵経とい
あれと偽経なりけるやう
薩埵浮波上海邊正知此地有因縁自盟二
佛中間化日往來迦羅吒山
きやうちすぐこんくはいまぐそぬまに

きこなくどてそれうすくこん
是利生氏直義ぞ宝ぐこおくれぐこおちぐこ
かこにやあこちこんぞくこれあり。
ちこここ
薩埵相比蜀左擔五丁力士益貪婪竊鉤盜
國兄兼弟足利駿州異日談
ぬやきこんこちこちこの面ぬりこて
ここかこいどじこここ山ぐ那
きこぬぐこりてゆすのこ面ぬこぐこれこお面のきか

くしけずりさぶらはれるよゆゑ
挹潮海士袖常沾鮹得鹹鰭其價廉世諺應
思雖物小百貫珍饌一錢鹽
よやうもみかへるもの
いつほしあんばいのぬれぎぬ
ゆみはずまして蒲原のおじはやよりうるもぬらぬ色
かもとうふ宿のよんどころとふほどるどれ
たるもまちつけんとておるあるよりうち入るに
ちやうじにやりのかきうちはぐんまじたいごろを

すてはいほのさもしらるとちるとさまで
ひきゆきとふふうちうけるたび人乃
ちやうにやうちんさゆる事はたれもまをも
ふりもびそうれのをとりしやりけんどもなる
よりうりうれもしはたびのりしとぶる
人われどもるんとおりうるもとりしたる
すぐ
蘆葭深處蒲原驛憩息茶亭思古客跨馬沈
吟欲仰頭士峰靂笠乾坤窄

かとられたるものの花さぞなわん

さとをすぐるのみづのきしゆき

いとづちといふをやすきてみづのよもいこれ

岡よ大井川おべ川みづ川ちどれ陵阪あれいづる

がのまとみつやゆきみづのゆきはるるぐれく

きれいみづ川といふとちう

富嶺向陽雪髓流士川澔澌疾輕舟死生底

板一枚裏多少旅人共縮頭

けりわるたりひれ宮の名きく

ちうて、いくりれみづ川のこれ

みづ川といふみづねのぼりたるしけ

無別南実盛の平岡れ軍兵づくれとかう

しまりう平家おくしてゆるのびれる。

ゆちうさすちや源氏乃軍勢とせうとん

えてぶげ下ぶれど人乃強弱をあうち。

ちうびどのぐえ信ぶべきちう。系行天皇

乃ちうこん弟の寇賊ぶ武ぐぶうれ極武

天皇北対こん眞別のるれ塚とれ軍ぶうぶ

朱雀天皇の代に成て。おるの孫門。俊茂こうれ
あ邪の貞任。宗任を。係の教義。義家にうれあるハ。
いけどもぬ。れとんもい。強弱をあめにしよ
らずのうよ。ぐ。かりうんて。武王。紂武をうとめく
にあるはに。岳代おこ。子ぐ。諸葛楠木とうがごうに。
義あるバ。義岳とおこうとぐ。これとうるハ。智うう。
智ぐりまど。義をうんて。勇あり。その最殿にしもかさ
はへる。織田武田豊臣ちとがごとぬ。国とぬ
すし。平世の姦賊。乱世の英雄うてがとう。

そ代ゆよあるうう代ちうで。赤茂が分とかるて。
平家よりさうぐ。源氏の子とううしをつひ
しうぐ。かうるかうるかうるかうるかうるかうや
武以東西不可事唯愁無聽義仁兵齊藤三
寸當三萬口佐源家身佐平
ちもものしやなれぐさいうう
ちうたぐうそそびかうう
ただれにういつもぐ。赤人のううんぐやう
乃弥ちう。句代りうしるか。むうれバそ尾

乃吟とつくる

萬古目前多古浦○赤人高詠貫今古○無邊風景一吟中○萬古目前多古浦○

田子乃うらにうちいでてみれば白たへの
富士の高ねに雪は降つつ

このことをふまへて乃ちゆき
もはゝ乃紀よりさきはゆがくらはべくるとも。
はるかにてんゆこゝろくハふでにあらはしてひ
かへへるぐくとあぐさぬまわりぬのをひけるが
ごとし。山乃みどりとかけひくをしてそしをげを

ひとつまつとだうとうとでみおくよさほをして。
もれまるをおほくぱりまつとみるこハうこ乃
おもゝゆくをんわるれてをれをけづりのまを
いとふうきあぐをんれとをくべて松浦の海をこにさん
ざうをぐにをんんんんんんにたるをれる
とのををぱりハぬ乃うんようひて蓮葉ぱをつ
乃をまれごくおあうをれようてぐををこ海や
をづけうがけうつををみの乃ぱにぱをのみ
みけうもをにうをゆうをとかけうぐを

[illegible]

いまゝ[illegible]

ひあり[illegible]

[illegible]

ひちぬ

南海浮雲田子煙○北湖泛雪富巖巔○中原漭

浪白沙地○如動如浮似乗船○

[illegible]

[illegible]

日かゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

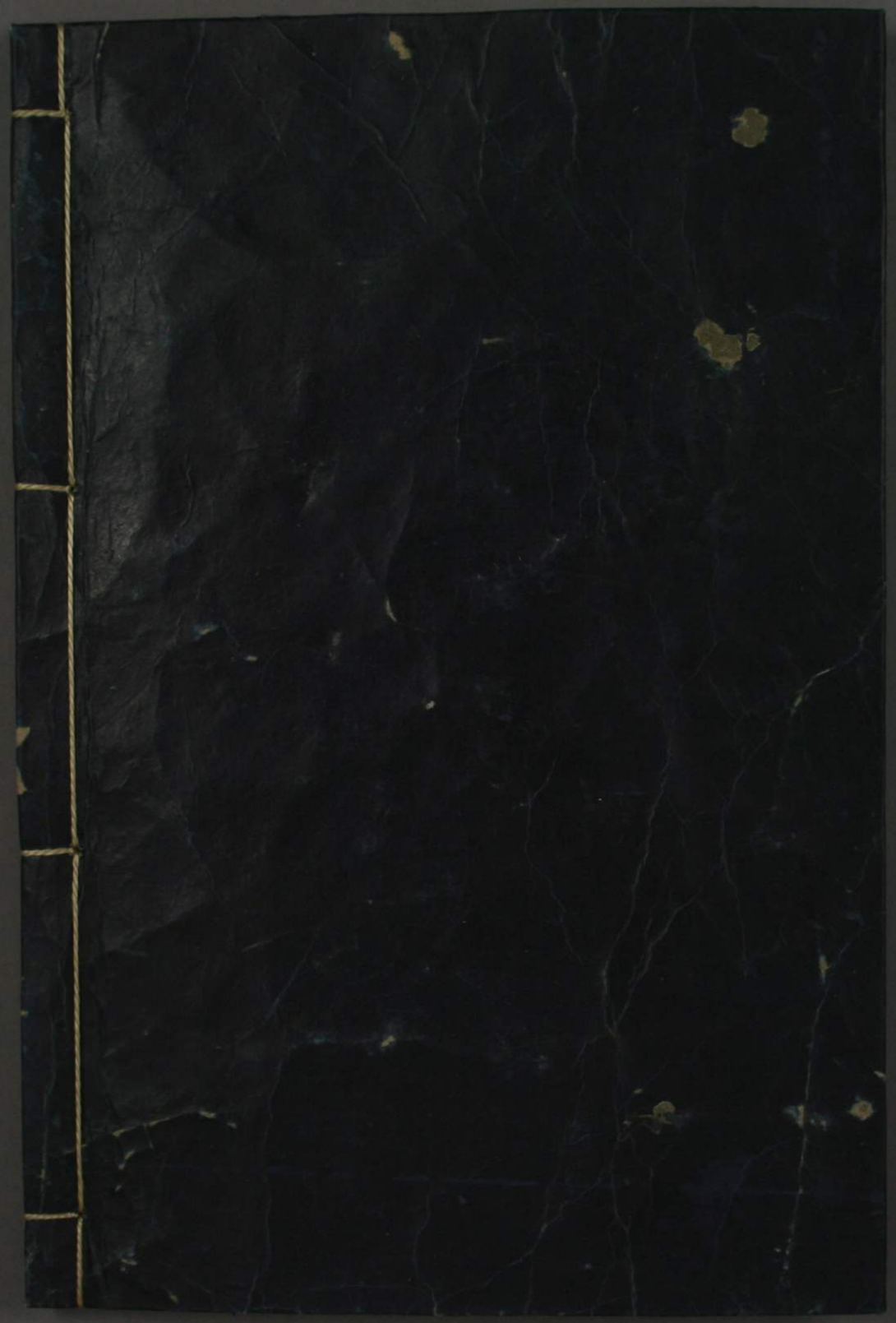
[illegible]

[illegible]

[illegible]

村童嫖姚走沙濵○輕剽更無比楚人○兒戲任

他推普化○打飜筋斗是誰眞○

みちのくれてたゝれとするゞれる
ふまうへ乃屋の名ゝ

武藏野路州中